

■貧困問題の責任は誰にあるのか

子どもの貧困は「家庭が貧しいために、子どもたちが貧困状態に置かれている」ことにあります。ところが貧困状態にある家庭（大人）に世間はあまり優しくありません。

でも本当に貧困は当事者だけの責任なのでしようか。

子ども食堂やフードドライブの活動を通じて現実を知るほど、私たちは、社会構造が貧困や格差を作り出しているのではないかと考えるようになりました。

■人権意識の共有

社会保障制度が充実しているヨーロッパの人たちは、子どもの教育費や老後の資金に追われることも不安ありません。

「生活苦から解放されると、人は自由を感じます」と聞き、日本には本当の自由はないと思いました。

幸福度ランキングの項目は国連で設定しています。1位はデンマークです。

オランダは生活満足度1位で、子どもたちに幸せ？と聞くと「Yes!」と答えるのだそうです。国や政府が助けるべきだと考えているヨーロッパでは、社会の構造が貧困を作ることはないでしょう。

誰もが自分らしく生きる権利を保障する人権意識の共有が、社会で貯蓄する仕組みの合意点となっています。

■オランダは全員が正社員

働き方に考え方が象徴されています。オランダは全員正社員。同一労働同一条件で、時間や日数を自分で考え働くことができます。

子育ても介護も制度が整っていますが、自分でできる時間も選べます。自分で意思決定できることがモチベーションや生産性につながります。

■すべり台社会

日本は、中福祉中負担だと思っているようですが、医療、教育諸々個人負担の大きさを見れば、実は高負担なのが現実です。

しかも、日本の幸福度ランキングは現在54位。一度滑り落ちたら2度と這い上がれない「すべり台社会」だとも言われています。

いつでもいくらでも自分のしたいことができる、好きな所から乗ったり下りたりできるメリーゴーランドのようなオランダの社会をつくったのは、実は民主的な政治だとわかりました。

■民主的な政治が幸福な国をつくる

日本は、納税の達成感がなく、どうしても政治に諦めや不信任感が募ります。

ドイツ、オランダ、デンマークで起きていることを別の国の話で終わらせないためには、私

たちが、税金の使われ方を知り、トータルな施策の提案をしていくことが必要です。子どもの貧困問題が、自己責任論を乗り越えられてたてて地域の中を分析する、私たちの活動を継続していこうと思えました。

学習会

「社会の構造が貧困をつくる」

講師 白井和宏さん
市民セクター政策機構代表専務理事

日時 2018年5月12日

会場 生活クラブ生協狭山生活館

生活って政治

あなたの声をお寄せください。

私たちは、日々の生活で気づいた疑問を出し合い、調べ、市政に提案する活動をしています。あなたの声と参加が、まちをつくります。市民ネットワーク鶴ヶ島に、ご意見をお寄せください。

メール tsurunetorg@gmail.com
FAX 049-285-3504

